

有形文化財 3 ホールである他、東京都選定歴史的建造物 1 ホール、名古屋市都市景観重要建築物等 1 ホール、docomomo japan174 選 1 ホールとなっていた。これらは戦前期のモダニズム以前の様式建築であり、その歴史的価値が認められているものであるためこのような結果が得られたと考えられる。

図 6 に 1 年ごとの開館年と保全・保存の是非との関係を示した。1963 年において廃館し建替えるホールが多いなどの特徴がみられるが全体としては関係性が見られないため、保全・保存の是非に開館年は関与しないと言える。但し、図 5 より時代別に着目すると歴史的価値より保全・保存されるホールが存在することが把握できる。

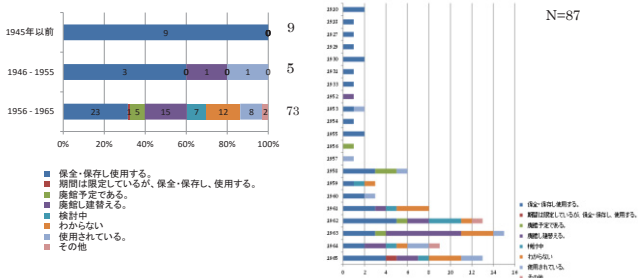


図 5 開館年と保全・保存の是非との関係 (アンケート+文献調査)

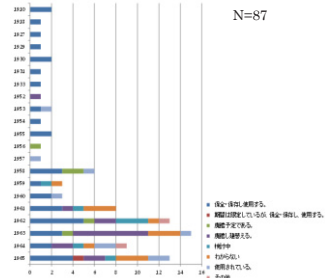


図 6 一年ごとの開館年と保全・保存の是非との関係 (アンケート+文献調査)

3.3 歴史的経緯と保全・保存の是非

3.3.1 歴史的経緯

歴史的経緯は、「著名な建築家による設計である」「設立時、市民による寄付金援助がある」「過去の要人が来訪されたことがある」「実力者の助成金により設立された」「博覧会などの、何らかの催し物が行われた」などがある。アンケート回答が得られた 52 ホールのうち 24 件 (46%) に歴史的経緯があるという結果が得られた。(図 7) また歴史的経緯がないホールは 20 件 (38%) となり全体としては約半数ずつの結果となった。

文献調査により得られた情報を加えた全 88 ホールの歴史的経緯に関しては、35 件 (40%) に歴史的経緯があるという結果が得られた。(図 8)

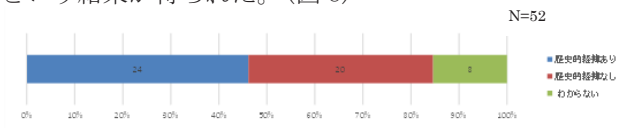


図 7 歴史的経緯の有無 (アンケート)

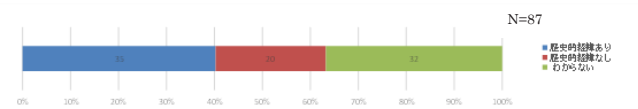


図 8 歴史的経緯の有無 (アンケート+文献調査)

具体的な歴史的経緯はアンケート回答(図 7)、アンケート + 文献調査(図 8)共に「著名な建築家による設計」が

最も多い。アンケート結果では歴史的経緯がある 24 ホールのうち 15 ホールが回答しており、アンケート結果と文献調査からでは歴史的経緯がある 35 ホールのうち 23 ホールが回答している。

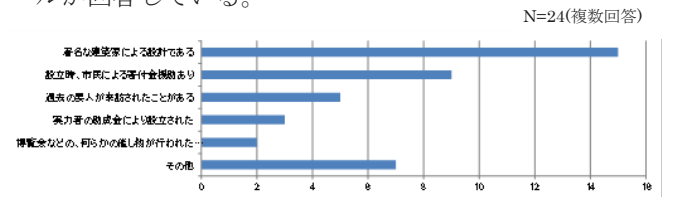


図 9 歴史的経緯 (アンケート)

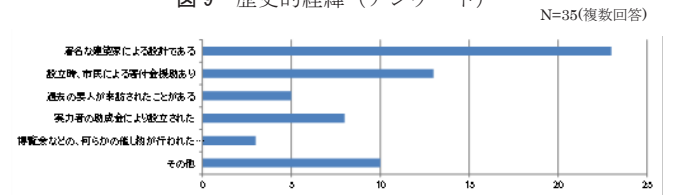


図 10 歴史的経緯 (アンケート+文献調査)

3.3.2 歴史的経緯と保全・保存の是非との関係

歴史的経緯と保全・保存の是非との関係を図 11 および 12 に示した。「保全・保存し使用する」という割合が、歴史的経緯がないものは 20%以下に対し歴史的経緯があるものは 80%以上である。さらに「廃館予定である」と「廃館し建て替える」の割合が「歴史的経緯がない」の割合において最も多いことから歴史的経緯の有無と保全・保存の是非には相関があると推測される。

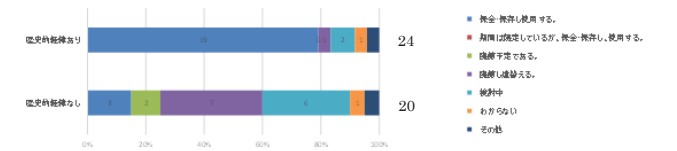


図 11 歴史的経緯と保全・保存の是非との関係(アンケート)

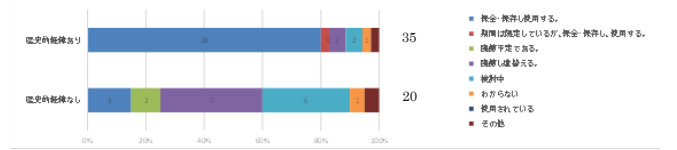


図 12 歴史的経緯と保全・保存の是非との関係 (アンケート + 文献調査)

3.3.3 建築家と保全・保存の是非との関係

「著名な建築家による設計である」と回答した 15 ホールの建築家を表 3 に示した。アンケート回答がなかった 6 ホールを加えた、21 ホール中 16 ホールが保全・保存し使用する (76%) という結果が得られた。また表に示されているホール以外の保全・保存の是非は 66 ホール中 19 ホールが回答している。

表 3 劇場・ホール設計者

劇場・ホール	設計者
北九州市立八幡市民会館	村野善吾
茨子町公会堂	
広島平和記念資料館	
今治市公会堂	丹下健三
日南市文化センター	
神奈川県立音楽堂	
世田谷区立世田谷区民会館	前川國男
福奈川県立青少年センター	
弘前市公会堂	
京都府立音楽堂	
東原文化会館	
群馬県立音楽堂	佐藤功一
日比谷公会堂	
堺市公会堂	中村興資平
八代市厚生会館	声原義信
余次歌劇座	谷口吉郎
防府市公会堂	佐藤武夫
岡崎市市民館	
群馬県立文化センター	アントニン・レーモンド
長崎市公会堂	武蔵雄
長瀬市公会堂	増田友也
石橋文化センター	菊竹清訓

ール (29%) であり著名な建築家による設計は保全・保存に対して影響を与えていると思われる。

3.3.4 設立時の市民の寄付金と保全・保存の是非との関係

設立時市民の寄付金によって建てられた劇場・ホールと保全・保存の是非

との関係を表 4 に示した。11 ホール中 8 ホール (72%) が保全・保存し使用され続けるという結果が得られた。廃館し建て替えるホール長崎市公会堂、尾道市公会堂および現在検討中のホール世田谷区立世田谷区民開館

にはそれぞれ各団体の保存要望書が提出されている。長崎市公会堂、尾道市公会堂にはそれぞれ保存団体も発足されていた。設立時市民の寄付金によって建てられた劇場・ホールはその存続に大きく関与しているといえる。

3.4 国指定文化財およびその他受賞・選定ホール

「国指定重要文化財」「有形登録文化財」「DOCOMOMO JAPAN」「belca 賞」「BCS 賞」「都道府県市町村選定建造物」「日本建築学会賞」に登録・選定・受賞されているホールを表 5 に示す。表 5 のホールの中で廃館予定または建て替えであるホールは長崎市公会堂のみであり検討中である世田谷区民開館を除けば全て保全・保存し使用するという結果となった。

4. 保全・保存および廃館・建替に至るプロセス及び要因

調査項目より得られた資料をもとに、各ホールの保全・保存および廃館・建替に至るフローチャートの作成を行った。それらを 11 のパターンに分類した。表 6 はそれらパターンを分類したホール数である。基本的に諸項目と関係がある劇場・ホールが保存される傾向にある。逆に関係がないホールに関しては廃館となることが多い。

表 4 設立時の市民の寄付金があった劇場・ホール

劇場・ホール	開館年
八千代座	1910年
名古屋市公会堂	1930年
豊橋市公会堂	1931年
世田谷区立世田谷区民開館	1959年
群馬音楽センター	1961年
長崎市公会堂	1962年
金沢歌劇座	1962年
福知山市厚生会館	1962年
尾道市公会堂	1963年
日立市日立市民会館	1965年
津山文化センター	1965年

表 5 国指定文化財およびその他受賞・選定ホール一覧 (アンケート + 文献調査)

登録・選定・受賞内容	ホール名
国指定重要文化財	八千代座
	小坂町康楽館
	大阪市中央公会堂
登録有形文化財	岩手県公会堂
	豊橋市公会堂
都道府県市町村選定建造物	日比谷公会堂
	名古屋市公会堂
日本建築学会賞	京都金館(1960)
	東京文化会館(1961)
BCS賞	東京文化会館
	京都金館
belca賞	津山文化センター
	神奈川県立音楽堂
DOCOMOMO JAPAN	東京文化会館
	弘前市民会館
	神戸市立御影公会堂
	神奈川県立音楽堂
	今治市公会堂
	世田谷区民開館
	京都金館
	群馬音楽センター
	東京文化会館
	長崎市公会堂
津山文化センター	

表 6 保全・保存の是非と諸項目との関係

改修経緯	○	○	○	○	○	○	○
歴史的経緯	○	○	○	○	○	○	○
保存要望書・保存運動	○	○	○	○	○	○	○
保全・保存	6	20	1	-	5	-	-
廃館予定 廃館・建て替え	-	-	-	3	2	3	11
検討中	-	-	-	1	1	1	4

4.1 「改修経緯あり」+「歴史的経緯あり」保存型

最も多いパターンである。保存の要因として西宮市立

夙川公民館、石橋文化センターのような実力者により寄贈され地域の人々の誇りになっているもの、丹下健三、前川国男などの著名な建築家により設計されたホール、神戸市立御影公会堂、や広島平和記念資料館のような印象的な利用経験を提供する活用方法をするホールがあげられる。それらに加え大規模改修を行うなどで施設の維持管理を行ってきたため保全・保存に至ったと考えられる。

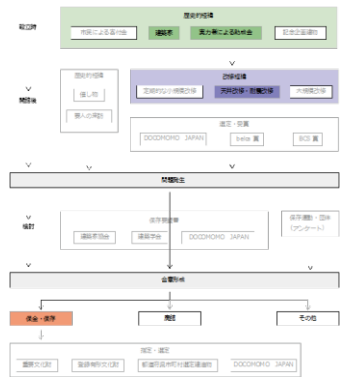


図 12 「改修経緯あり」+「歴史的経緯あり」保存型のフローチャート

4.2 「改修経緯あり」+「歴史的経緯あり」+「保全・保存運動あり」保存型

「改修経緯あり」+「歴史的経緯あり」保存型のホールと保存の要因は類似している。しかし保存価値の認識が低い場合や改修による維持修繕が不可能であること、新たな都市構想の発足などの理由から取り壊し検討が行われた。それに対し各団体の保存要望書の提出や、保存団体により保存運動から保全・保存された建物。

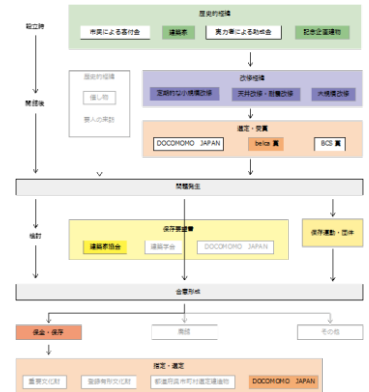


図 13 「改修経緯あり」+「歴史的経緯あり」+「保全・保存運動あり」保存型のフローチャート

4.3 「改修経緯・歴史的経緯・保全・保存運動なし」廃館型

施設の老朽化、バリアフリーや耐震化未対応が主な要因である。50 年以上使用され続けた要因として建て替えのための財政確保が困難であったこと、建て替え案が廃止されてきたなどの経緯がある。

4.4 「歴史的経緯あり」+「保全・保存運動あり」廃館型

著名な建築家による設計であること、市民の浄財によ

り設立された建物であることから保存要望書の提出、保存団体の活動があったが廃館予定のホール。改修などの維持修繕が行われていないため施設の老朽化や耐震性不足であることが決め手となり廃館に至っている。

4.5 「改修経緯・歴史的経緯・保全・保存運動なし」検討型

施設の老朽化、設備の陳腐化、バリアフリーや耐震化未対応が主な要因である。しかし、立地条件が良く、活動拠点とする団体、利用者が多いため検討となっている。

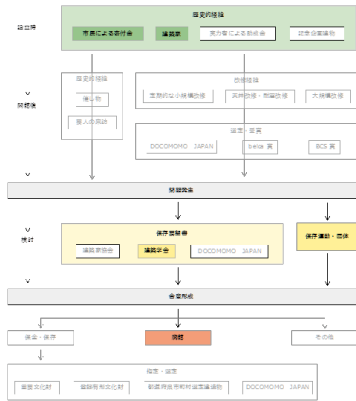


図14 「歴史的経緯あり」+「保全・保存運動あり」・廃館型のフローチャート

4.6 「歴史的経緯あり」+「保全・保存運動あり」検討型

著名な建築家による設計であり、また市民の浄財により設立された建物であることから保存要望書の提出、保存運動、保存団体の活動があり現在検討中のホール。改修などの維持修繕が行われていないため施設の老朽化や耐震性不足であることが問題となっている。

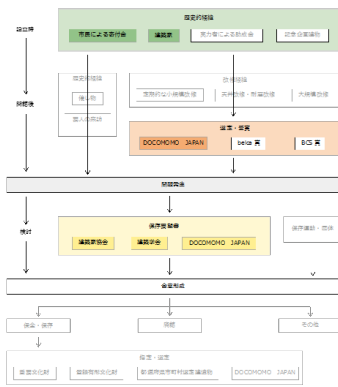


図15 「歴史的経緯あり」+「保全・保存運動あり」・検討型のフローチャート

4.7 「改修経緯あり」保存型

立地条件の良さや市役所が近く催しの場として定期的に利用されている。継続的な利用者が多いため、改修し使用するという合意形成に至ったもの。

4.8 「改修経緯あり」廃館型

建物自体の問題はないが、公共施設の設置動向の変化などの、集約し建て替えることが原因で廃館になってしまうもの。

4.9 「歴史的経緯あり」検討型

老朽化が進む中、何らかの歴史的経緯があること、利用者が多いこと、財政負担が大きいことから建て替えに至らない。

5. まとめ

1) 保全・保存について

戦前に開館した9ホールにおいては重要文化財登録や有形文化財登録を受けておりその価値が認められているものであるため全ホールが保全・保存し使用することが

わかった。

上記以外のホールにおいては、ホールが建つその地域に対してどのような位置づけであるかが極めて重要である。具体的には以下の通りである。

- ①実力者により寄贈され、地域の人々の誇りとなっているホール。
- ②市民の浄財により設立されホールがその地域の歴史となるホール。
- ③著名な建築家による設計であり、その価値が地域に認知されているホール。
- ④立地条件の良さや市役所が近く催しの場として定期的に利用されている。活動拠点とする団体、利用者が多いホール。
- ⑤国民大会が行われた場である日比谷公会堂や結婚式場であった神戸市立御影公会堂といった印象的な利用経験を提供した、活用方法をされたホール。

上記の他に財政負担が大きすぎるため維持修繕を行い使用し続けるホールも存在することが明らかとなった。

2) 廃館・建て替えについて

大改修や耐震・天井改修、定期的な改修が行われていないホールが最も廃館・建て替えとなる。要因として施設の老朽化や設備の陳腐化である。「1」保全・保存」で記述した項目に当てはまっている場合も例外ではないことが明らかになった。よって、ホールを使用し続ける条件として、躯体に関わる改修を視野に入れた専門的な調査を行うことが上げられる。

謝辞

本研究を進めるにあたり、アンケート、電話等により貴重なご意見、資料をいただいた各劇場・ホール管理担当者様、各行政の文化行政担当部署の方々に対し厚くお礼申し上げます。

参考文献

- 1) 公益社団法人全国公立文化施設協会, 「平成26年度全国公立文化施設名簿」, 2013年
- 2) 全国公立文化施設協会 Web ページ <http://www.zenkoubun.jp/>
- 3) 公益社団法人全国公立文化施設協会, 公共文化会館の建設計画および改修について参考資料集, 2001年
- 4) 松隈洋, 「残すべき建築 モダニズム建築は何を求めたのか」 誠文堂新光社, 2013年
- 5) DOKOMOMO Japan web ページ <http://www.docomomojapan.com/>
- 6) 公益社団法人ロングライフビル推進協会 web ページ <http://www.belca.or.jp/belca4.htm>
- 7) 公益社団法人日本建築家協会 web ページ <http://www.jia-kanto.org/members/organization/hozon/>
- 8) 藤田怜, 本杉省三, 前田明継, 手川絵美, 勝又英明, 公立文化ホールの建築系改修の実態について-1980年以前に開館した県立クラスホールの改修に関する実態調査(その4)-2010年度大会(北陸) 日本建築学会学術講演梗概書

*1 東京都市大学大学院工学研究科建築学専攻博士前期課程

*2 東京都市大学工学部教授 博士(工学)